



改元記念特集

広報誌で振り返る「平成」の幌延町

No.5

幌延町広報誌「ほろのべの窓」2008年3月号 No.521 (平成20年3月号)

[こんなことが掲載されました]

幌延町立病院のあり方 基本構想がまとまりました ~診療所を新築します~

病院などの病床数の削減を目的とした「医療制度改革法」が平成18年に成立したことを受け、当時、建物の老朽化対策が課題だった「幌延町立病院」(40床)の今後のあり方について、町議会議員や町職員がそれぞれ検討委員会をつくり議論を重ねていました。

平成20年3月号では、町民の意見を踏まえた上でまとめた「幌延町立病院基本構想」を見開き1ページにわたって紹介しています。

内容は「新築して有床(15床)の診療所にすること」「特別養護老人ホームの入所定員を10名増やすこと」「歯科診療所を独立させること」など構想の基本理念や施設整備に関わる21項目が書かれています。病院から診療所へ変更することに不安をもつ町民に対し、町は「何よりも守るものは町民の命であることを大前提にしています」と理解を求めています。

その後、この構想に従って平成22年に工事が始まり、翌年10月には「幌延町立診療所」が無事開所しました。それから8年半を経た平成31年4月、診療所の名前が「幌延町国民健康保険診療所」に変わり、現在に至ります。



▲表紙は「問寒別ミニパレーボール愛好会による除雪ボランティア」でした。



わが家のエンジェル



平成30年12月14日生・幌延 梶 茅ちゃん
お父さん 淳 さん
お母さん 睦美 さん



(令和元年7月末日現在) ※()内は前月比

Table with population statistics: 男 1,177 (-3), 女 1,123 (-3), 計 2,300 (-6), 世帯数 1,250 (+1)

ほろのべの裏窓

窓ガラスを外して道北の風や景色を楽しむ観光列車「風つこそや」が7、8月の7日間、全国の鉄道ファンを乗せて稚内〜苫小牧間を駆け抜けました。季節の話題として表紙写真にびったりと思い、下沼踏線橋で撮影しました。
風つこそやが停車している幌延駅に向かうと、ホームには横断幕が掲げられ、歓迎の催しが開かれています。乗客は幌延のワインやジンギスカンに舌鼓を打ち、井上仁志観光大使の演奏を聴きながら、笑顔で旅立っていきました。
その微笑ましい様子を見て鉄道好きの私の胸はチクツと痛みました。昨年まで住んでいた日高管内浦河町では、日高線の一部(鶴川〜似間)が4年半前の高波で線路が壊れて以降、運休が続いています。JRが試算した復旧費は莫大な上に、
運行赤字が続くことから沿線自治体はやむなくバス転換の決断を迫られています。
もし、競走馬の産地である日高で風つこそやのような観光列車を走らせることができれば、線路沿いでサラブレッドがのんびりと草を食む牧場風景を観光の目玉にして、路線復旧に向けた起爆剤にできたのではないかと思うと残念です。
宗谷線も存廃問題に揺れる路線の一つです。今の運行ダイヤは遠方に行くには利用しづらく、「必要ないのではないか」との声も耳に入ります。一方、車がなかったり、足が悪くバスの乗り降りに苦労する人は列車を利用しています。JRは公共交通です。交通弱者や幌延を訪れる観光客のためにも存続の道を探り続けてほしいと、1人の町民として願っています。

●広報へのご意見、ご要望をお寄せください● 住民生活課生活グループ

電話：5-1112 / 告知端末機：5-8812

令和元年9月 発行/天塩郡幌延町 企画・編集/住民生活課生活グループ 幌延町ホームページアドレス/ http://www.town.horiyama.hokkaido.jp

印刷/株式会社須田製版